

音楽・リズム表現資料

西洋音楽の用語

音量の強さを示す記号と用語

記号	読み方	意味	記号・用語	読み方	意味
<i>fff</i>	フォルテ・フォルティッシモ フォルティッシッシモ	<i>ff</i> よりさらに強く	<i>crescendo</i> (cresc.)	クレシェンド	だんだん強く
<i>ff</i>	フォルティッシモ	とても強く	<i>decrescendo</i> (decresc.)	デクレシェンド	だんだん弱く
<i>f</i>	フォルテ	強く	<i>diminuendo</i> (dim.)	ディミヌエンド	だんだん弱く
<i>mf</i>	メッゾ・フォルテ	少し強く	<i>sf, sfz</i>	スフォルツァンド スフォルツァート	特に強く
<i>mp</i>	メッゾ・ピアノ	少し弱く	<i>rinforzando</i> (rf)	リンフォルツァンド	急に強く
<i>p</i>	ピアノ	弱く	<i>fp</i>	フォルテ・ピアノ	強く直ちに弱く
<i>pp</i>	ピアノッシモ	とても弱く			
<i>ppp</i>	ピアノ・ピアノッシモ ピアノッシッシモ	<i>pp</i> よりさらに弱く			

速さおよびその変化を示す用語

用語	読み方	意味	用語	読み方	意味
Adagio	アダージョ	ゆるやかに	accelerando (accel.)	アツチェランド	だんだん速く
Lento	レント	ゆるやかに	allargando (allarg.)	アッラルガンド	強くしながらだんだん遅く
Andante	アンダンテ	ゆっくり歩くような速さで	calando	カランド	弱くしながらだんだん遅く
Andantino	アンダンティーノ	アンダンテよりやや速く	rallentando (rall.)	ラレンタンド	だんだんゆるやかに
Moderato	モデラート	中ぐらいの速さで	ritardando (ritard., rit.)	リタルダンド	だんだん遅く
Allegretto	アレグレット	やや速く	ritenuto (riten.)	リテヌート	すぐに遅く
Allegro Moderato	アレグロ・モデラート	ほどよく速く	smorzando (smorz.)	ズモルツァンド	弱くしながらだんだん遅く
Allegro	アレグロ	速く	a tempo	ア・テンポ	もとの速さで
Animato	アニマト	元気に速く	Tempo I	テンポ・プリモ	最初の速さで
Vivace	ヴィヴァーチェ	活発に速く			

調発想を示す用語

用語	読み方	意味	用語	読み方	意味
amabile	アマービレ	愛らしく	leggero (leggiero)	レツジャーロ	軽く
cantabile	カンタービレ	歌うように	maestoso	マエストーソ	荘厳に
dolce	ドルチェ	甘くやわらかに	mosso	モッソ	躍動して
espressivo (espr.)	エスプレッシーヴォ	表情豊かに	sostenuto (sost.)	ソステヌート	音の長さを十分に保って

演奏法を示す記号と用語

記号・用語	読み方	意味	用語	読み方	意味
	スタッカート	その音を短く切って	colla voce	コッラ・ヴォーチェ	主パートに従って
	メッゾ・スタッカート	その音を少し短く切って	divisi (div.)	ディヴィジ	ひとつのパートを分けて
 または <i>ten.</i>	テヌート	その音の長さを十分に保って	legato	レガート	音の間を切れ目なくつなげて
 または 	アクセント	めだたせて、強調して	marcato (marc.)	マルカート	一つひとつの音をはっきり奏する
	フェルマータ	ほどよく延ばして	sotto voce	ソット・ヴォーチェ	静かに押さえた声で
	スラー	違う高さの2つ以上の音符を滑らかに	unison (unis.)	ユニゾン	そのパートの全員が同じ音(旋律)を演奏すること
	タイ	隣り合った同じ高さの音符をつなぎ、1つの音に			

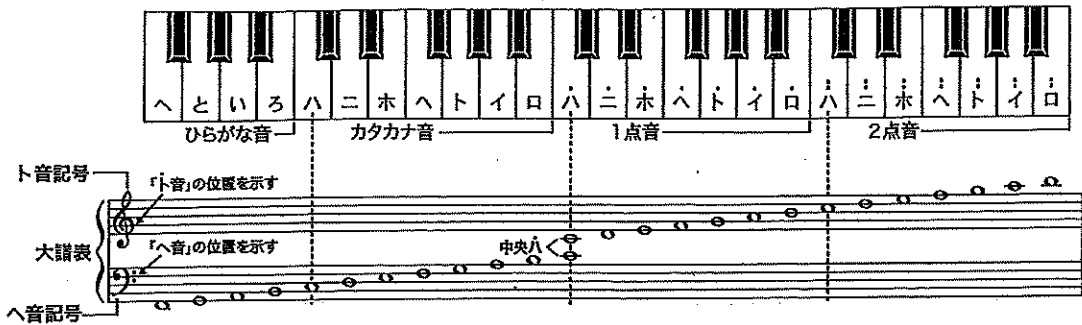
補助的な用語

用語	読み方	意味	用語	読み方	意味
alla	アッラ	～ふうに	più	ピウ	よりいっそう
assai	アッサイ	非常に	poco a poco	ポーコ・ア・ポーコ	少しずつ
con	コン	～をもって	quasi	クワジ	ほとんど～のように
ma	マ	しかし	senza	センツァ	～なしで、～を用いず
meno	メーノ	より少なく	sempre	センプレ	常に
molto	モルト	非常に	simile	シーミレ	前と同様に続けて
non troppo	ノン・トロッポ	はなはだしくなく	subito (sub.)	スービト	急に
			tanto	タント	多く
			un poco	ウン・ポーコ	やや少し

楽典

◎音名と音部記号

音名：音の高さに対する固有の名称。日本では「ハニホヘトイロ」が用いられる。



ひとくちメモ ト音記号はアルファベットのGを、ヘ音記号はFを、ハ音記号はCをそれぞれ図案化したもの。

大譜表：ピアノやハープなどの楽譜に使用されることが多い。

幹音：♯や♭などの変化記号が付かない音。

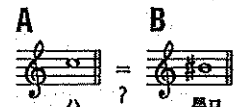
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ
イタリア語	Do	Re	MI	Fa	Sol	La	Si
ドイツ語	C	D	E	F	G	A	H
英語	C	D	E	F	G	A	B

変化記号：音を半音または全音変化させる記号。

- ♯ (シャープ：変記号)：半音高くする。
- ♭ (フラット：変記号)：半音低くする。
- × (ダブル・シャープ：重変記号)：全音高くする。
- ♭♭ (ダブル・フラット：重変記号)：全音低くする。
- ♮ (ナチュラル：本位記号)：幹音に戻す。

派生音：幹音に変化記号(♯は除く)が付いて変化した音。

日本語	嬰ハ	嬰ニ	嬰ホ	嬰ヘ	嬰ト	嬰イ	嬰ロ	変ハ	変ニ	変ホ	変ヘ	変ト	変イ	変ロ
ドイツ語	Cis	Dis	Eis	Fis	Gis	Ais	His	Ces	Des	Es	Fes	Ges	As	B
英語	C#	D#	E#	F#	G#	A#	B#	Cb	Db	Eb	Fb	Gb	Ab	Bb

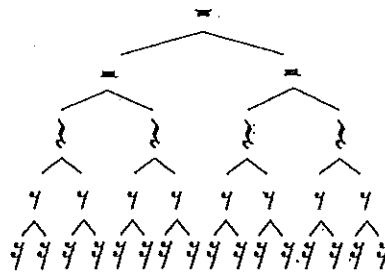
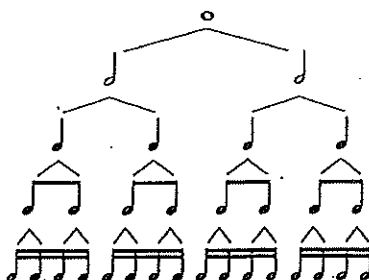


上のAとBは鍵盤上では同じ音であるが、音名が違う。このような関係を持つ音どうしを異名同音という。

◎音符と休符

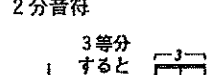
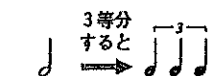
音符	名前	長さの割合 (♩を1拍とした場合)	休符	名前
○	全音符	4拍	—	全休符
♪	付点2分音符	3拍	—	付点2分休符
♪	2分音符	2拍	—	2分休符
♪	付点4分音符	1½拍	♪	付点4分休符
♪	4分音符	1拍	♪	4分休符
♪	付点8分音符	¾拍	♪	付点8分休符
♪	8分音符	½拍	♪	8分休符
♪	16分音符	¼拍	♪	16分休符

※全休符は、 $\frac{4}{4}$ 以外の拍子でも、1小節間休む場合に用いられる。



付点は基になっている音符や休符の半分の長さに当たる。したがって、点の付いた音符や休符の長さは、基になっている音符・休符の1.5倍になる。

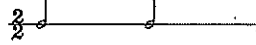
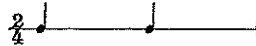
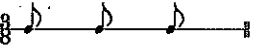
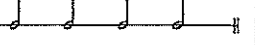
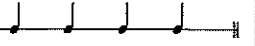
2分音符や4分音符などを3等分して作られる一群の音符を三連符という。



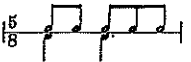
◎拍子

拍子記号：曲の拍子を表す記号で、曲の冒頭に示す。

$\frac{2}{4}$...1小節内の拍の数
 $\frac{4}{4}$...1拍となる音符の種類

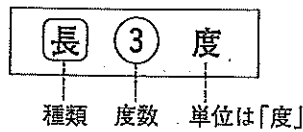
拍子の種類	2拍子系	3拍子系	4拍子系
単純拍子	$\frac{2}{2}$  $\frac{2}{4}$ 	$\frac{3}{4}$  $\frac{3}{8}$ 	$\frac{4}{4}$  $\frac{4}{8}$ 
複合拍子	$\frac{6}{8}$ 	$\frac{9}{8}$ 	$\frac{12}{8}$ 

※上記の他に5拍子や7拍子など、混合拍子と呼ばれるものもある。

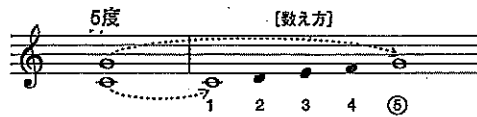
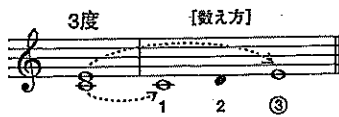
(例) 5拍子 $\frac{5}{8}$  $\frac{5}{8}$  7拍子 $\frac{7}{8}$  $\frac{7}{8}$ 

◎音程 2音間の高さの隔たりを音程という。

(例)



●度数の数え方



度数は幹音の数で数える。♯や♭などの変化記号が付いても、度数は変わらない。



これらはすべて5度である。

●音程の種類

音程には、完全・長・短・増・減・重増・重減という7つの種類がある。



* 2つの同じ高さの音は完全1度となり、それよりも狭い音程は存在しない。

2・3・6・7度
(長・短系)



音程の見分け方

音程判断をするときは、次の表を参考にしよう。

度数 \ 半音の数	0	1	2
2・3度	長	短	—
4・5度	増	完全	減
6・7度	—	長	短



— 全音 — 半音

①は半音が1つ含まれているので短3度、②は半音が1つも含まれていないので長3度である。

◎音階と階名 音階：ある音から特定の規則に従って並べられた1オクターヴ内の音の列。長音階と短音階があり、短音階は、自然的短音階、和声的短音階、旋律的短音階の3つに分けられる。

階名：音階を構成する各音に相対的につけられた名称。主音を長音階では「ド」、短音階では「ラ」と呼ぶ。

長調の音階

階名... ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド

第1音 第2音 第3音 第4音 第5音 第6音 第7音 第1音

主音 下属音 属音 主音

ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ ハ

※ハ音を主音とする長調の音階なので、ハ長調の音階という。

短調の音階(自然的短音階)

階名... ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ

第1音 第2音 第3音 第4音 第5音 第6音 第7音 第1音

主音 下属音 属音 主音

イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト イ

※イ音を主音とする短調の音階なので、イ短調の音階という。

短調の音階には、自然的短音階のほか和声的短音階と旋律的短音階がある。

イ短調の和声的短音階

主音 下属音 属音 第7音 主音

※終止感を強めるために第7音を半音高くする。この第7音の変化は臨時記号を用いて書く。

イ短調の旋律的短音階

〈上行形〉 〈下行形〉

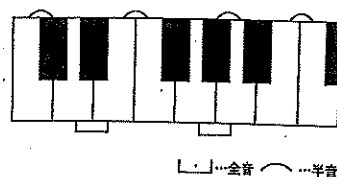
主音 下属音 属音 第6音 第7音 主音 主音 第7音 第6音 属音 下属音 主音

※旋律的短音階の上行形は、第6音と第7音を半音高くする。下行形は、自然的短音階と同じ音になる。この第6音と第7音の変化は、臨時記号を用いて書く。

- 主音：音階の基礎となる音。
- 下属音：主音の完全5度下の音。
- 属音：主音の完全5度上の音。
- 導音：主音から数えて7番目の音。主音との隔たりが半音の場合のみ。

全音と半音の見分け方

隣り合った白鍵と黒鍵や、黒鍵を挟まずに隣り合った白鍵どうしを半音と呼びます。半音2つ分を、全音と呼びます。



◎調号と主音

●調号(ハ長調の場合)

長調の音階

階名... ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド

ハ ト イ 変ロ ハ ニ ホ ハ

ハ音を出発点として幹音(白い鍵盤の音)を1オクターヴ並べると、口音が長調の音階からはずれてしまう。

口音を半音下げて変ロ音にすると、長調の音階になる。

変ロ音が出てくるたびにbを付けるのは大変なので、音部記号(♩や♪など)の右隣りにbを書く。これを調号という。

調号：各調の構成音に付く♯や♭を音部記号の右隣にまとめて書いたもので、すべての同音名の音に有効。

G ト D ニ A イ E ホ H ロ Fis 嬰ヘ Cis 嬰ハ
 (Dur) C ハ
 (長調)
 ホ a ロ h 嬰ヘ fis 嬰ハ cis 嬰ト 嬰ニ 嬰イ
 F B Es As Des Ges Ces
 (短調) イ a
 (Moll)
 変ロ 変ホ 変イ 変ニ 変ト 変ハ
 d g h f ロ 変ホ 変イ
 二 ト ハ ヘ 変ロ 変ホ 変イ
 d g h f ロ 変ホ 変イ

●: 短韻の主音

Dur, Mollはドイツ語で、一般的に長調の場合は大文字で、短調の場合は小文字で主音名を表示する。

◎關係調

属調：主調の音階の属音を主音とする調。

下屬調：主調の音階の下屬音を主音とする調。

平行調：主調と同じ調号をもつもうひとつの調。

同主調：主調と同じ主音をもつもうひとつの調。

ひとくちメモ

移調：ある曲の音程関係、拍子、リズムなどをまったく変えずに、
そっくり異なる調に移すこと。

転調：曲の途中で調が変わること。関係調へ移行することが多い。

ハ長調を主調とした場合

長調を主調とした場合

属調 (↑長調)

主調 (↑長調)

平行調 (↓短調)

下属調 (↓長調)

同主調 (↔短調)

イ短調を主調とした場合

短調を主調とした場合

↑
主調
↓
下屬調

同主調
(イ長調)

平行調
(ハ長調)

(イ短調)

風調
(ホ短調)

◎和音

2つ以上の高さの異なる音が同時に響く音のこと。

三和音：ある音の上に2つの音を3度の音程間隔で積み重ねた和音。

Diagram illustrating the notes of a chord on a musical staff. The notes are labeled as follows:

- 第5音 (5th note)
- 第3音 (3rd note)
- 根 (Root)

七の和音：三和音にさらに3度上(根音から7度上)の音を積み重ねた和音。

和音の種類

長三和音 短三和音 增三和音 減三和音

長三和音 短三和音 增三和音 減三和音

属七の和音 短七の和音 長七の和音 減七の和音

●音階上の三和音と和音記号

ハ長調上の三和音 イ短調上の三和音

和音記号 I II III IV V VI VII I II III IV V VI VII

機能 T S D T S D

※ ○ は主要三和音、● は副三和音と呼ぶ。

※Tはトニック、Sはサブドミナント、Dはドミナントを表す。

◎反復記号

(数字は演奏順序)

D.C. : 始めに戻る Fine : 終わり

D.S. : 夢に戻る

◎：次の◎までとばす コーダ：結び

※曲の最初から繰り返す場合には、最初の記号を省くことが多い。

●弱起と強起

曲が1拍目から始まることを強起といい、それ以外の拍から始まることを弱起という。

右の譜例では、〔a〕は1拍目から始まっているので強起、1拍目以外から始まっている〔b〕、〔c〕は弱起である。

弱起の曲では〔d〕のようにその冒頭小節と最終小節が1小節分の拍数を満たしていない。これらふたつの小節を不完全小節といい、1小節分の拍数を満たしている小節を完全小節という。

(a)

(b)

(c)

(d)

不完全小節 完全小節 不完全小節

●シンコペーション

拍子が本来もっている強拍や弱拍の位置が、休符やタイ、音の長さなどによって変わることを言う。下の譜例では※の部分でシンコペーションである。

●移調の例

ほろい樹

シューベルト 作曲

ホ長調

(階名) ソ ソ ミミミ ミド ド レ ミファミレド

ニ長調

(階名) ソ ソ ミミミ ミド ド レ ミファミレド

ハ長調

(階名) ソ ソ ミミミ ミド ド レ ミファミレド

●数字によって示す方法(速度記号)

1拍にあたる音符が1分間に何回演奏されるかを、次のように書き表す。

$\text{♩} = 120$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{♩ が1分間に120回演奏} \\ \text{される速さ。} \end{array} \right.$ $\text{♩} = 60$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{♩ が1分間に60回演奏} \\ \text{される速さ。} \end{array} \right.$

●装飾音と装飾記号

記譜法 長前打音 短前打音 複前打音

例 奏法

モルデント プラトリラー ターン トリル アルペッジョ